しゅうなん・文化財団
周南市美術博物館
郷土美術資料館・尾崎正章記念館
アート情報

Culture Information HANABATAKE
かるちゃあ通信
Art,Photo,History,etc.
花畠
2018(H30)Dec
12
No.284

発行　公益財団法人 周南市文化振興財団　山口県周南市徳山5854-41 (0834-22-8787) http://s-bunka.jp/top/
【美術博物館】山口県周南市花畠町10－16 (0834－22－8880) http://s-bunka.jp/bihaku/
【郷土美術資料館・尾崎正章記念館】山口県周南市富田永源（永源山公園内）(0834－62－3119) http://s-bunka.jp/kyoubi/

生誕100年 林忠彦展

林忠彦の世界　それは“昭和”だった

太宰治　東京・銀座のバー「ルパン」　昭和21年(1946)12月4日

銀座のバー「ルパン」であぐらをかく太宰治。知られざる無頼派の実像を世に放ったあまりにも有名なショットである。

では、初めて目にされたのは―。

私の場合は、高校時代、現代国語の教科書。彼の「富嶽百景」が載っており末尾にプロフィールとこの写真が添えられていた。「文学そのままの太宰が写っている」。その当時も絶大な人気で若者の揺れる心や将来への不安が、その退廃的な思考や行動とどこか通じあうところがあった。

さて、この歴史的傑作をものにしたのが、林忠彦である。そしてそれは、「この人物を残しておかなければならない」という写真家の直感に他ならなかった。

林は昭和21年（1946）5月、北京から引揚げ、東京で戦後の写真活動を開始した。そして同年12月4日、この写真を撮るのである。実は、太宰治、坂口安吾、織田作之助の3人は、前月の総合雑誌『改造』の座談会で意気投合し、再び「ルパン」に集まっているところだった。そこは、林忠彦も連絡場所にしており、その日は、僚友の吉田潤も同行していた。

ドアを開けるなり普段とはちがう異様な空気が漂っていた。顔見知りの編集者の隣に座る。奥に煙草をくゆらす男がいた。編集者から人気の織田作之助と聞き、織田に断り色々な角度から撮影していた。するとその奥のカウンターから、酔った男が急にわめきだした。

「織田作ばかり撮ってないで、俺も撮ってくれよ」。

林は、カチンときて再び編集者に確かめると、売出し中の太宰治だと分かった。早速、撮影に取りかかる。引きが無いので便所の戸をあけ、便器にまたがった。太宰まで3mあまり。ポン焚きの吉田に合図し、一、二、三でシャッターを切った。運命的というか、残り1回分の閃光粉、ラストショットだった。

前髪をたらしスツールに足をあげ、ネクタイにベスト、それに不釣合いな兵隊靴。場は異常な盛り上りを見せていた。これほど完璧な決定的瞬間があるだろうか―。それは誰も見たことのない太宰だった。

そして、この写真が編集者の知るところとなり、昭和23年（1948）1月号から『小説新潮』で文士シリーズが始まり、昭和25年（1950）12月号まで続く人気の企画となった。人物をその人とふさわしいモノや環境のなかにおき、その考えや生き方さえも写し取ろうとする手法は、林の独自のものとして写真界に受け入れられた。

そしていつしか、「作家を撮れば林。林に撮ってもらえれば一流の作家」の評が付き、林は人物写真の第一人者へと上りつめていくのである。

この写真、改めて見ると自然体の太宰が実にいい。それは、反俗、反権威や女性関係などからひと時、解放された無心からくる〝純一無雑〟な内面がそのまま伝わってくるからだろう。

（周南市美術博物館館長　有田順一）

■会　期

12月24日(月・振休)まで開催中

9時30分～17時（入館は16時30分まで）

夜間特別開館　12月21日(金)19時30分まで開館します。（入館は19時まで）

■休館日

月曜日　※12月24日(月・振休)は開館

■観覧料

●一　般 1,000円(800円)　●大学生 800円(600円)

(　)内は前売および20名以上の団体

18歳以下無料

休館のお知らせ　施設改修工事のため、12月29日～2019年4月1日まで休館します。ご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

生誕100年 林忠彦展

周南市美術博物館が収蔵する18シリーズ1,534点の中から210点を展示しています。

Ⅰ ドキュメンタリー

戦時下の日本

航空兵　松戸飛行場　1942年

カストリ時代Ⅰ

犬を負う子供たち
〈参謀本部跡　三宅坂〉1946年

カストリ時代Ⅱ

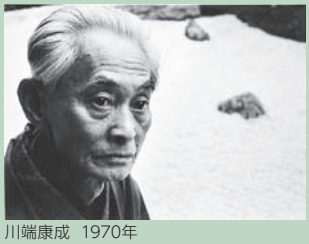
美空ひばり　1952年

小説のふるさと

「二十四の瞳」ー小豆島
岬の小学校から帰る先生を送る子供たち　1956年

Ⅱ 人物写真

日本の作家



川端康成　1970年

文士の時代

林芙美子　1951年

織田廣喜

窓辺に憩う画家と下から見上げる坊や
1954年

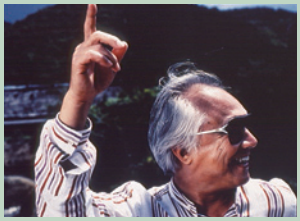
昭和のスターたち

岸惠子　1954年

日本の画家

香月泰男　1972年

日本の家元



勅使河原宏　1981年

Ⅲ 大きく広がる写真

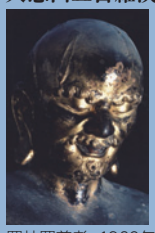
アメリカ1955

ニューヨーク　日曜日の五番街
1955年

異郷好日　世界の旅

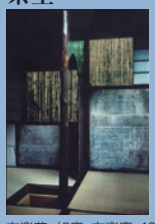
イタリア

天恩山五百羅漢寺



羅怙羅尊者　1982年

茶室



有楽苑　如庵　有楽窓　1980年

Ⅳ 風景写真

長崎・海と十字架

黄昏のキリシタン墓地　1980年

若き修羅たちの里 ―長州路

武家屋敷の土塀　1981年

西郷隆盛

桜島黎明　1982～83年

東海道

名古屋城

カフェテラスまど

12月24日まで

クリスマスシーズン限定メニュー

ふわふわクリームの上にココアパウダーでクリスマス模様をあしらいました。模様は3種類。なにがでてくるかはお楽しみ♪

クリスマスラテ
500円(税込)

12月23・24日限定
特別バージョン
コースター!

林忠彦展 生誕100年 グッズコーナー

「生誕100年林忠彦展」では、本展開催にあわせて製作した写真集や、これまで当館で開催した写真展の図録などを販売しています!

- 林忠彦 昭和を駆け抜ける　¥2,700(税込)
- 林忠彦×カール・マイダンス展　¥1,600(税込)
- 細江英公の写真1950-2000　¥2,800(税込)
- 世界遺産写真展Ⅲ　¥2,100(税込)　など

ポストカードやクリアファイルも販売中!

平成30年度みずほ教育福祉財団助成事業

歌声喫茶・ふれあい

叙情歌を中心にみんなで歌う楽しい集まりです♪

日時／平成31年1月17日(木)
13:30～約1時間30分

会場／社会福祉センター大会議室

入場料 無料
コーヒーお菓子付き

主催:周南市老人クラブ連合会

美博(びはく)クイズ～!〈59〉もんだい

この写真は林忠彦(はやしただひこ)の代表作(だいひょうさく)だよ。
どこで撮影(さつえい)されたのでしょう?
(ヒント:表紙(ひょうし)を見(み)てね。)

太宰治

こたえはどこかのページにあるよ。さがしてみよう!

周南市美術博物館 常設展示室

■常設観覧料：一 般 200円(160円)　大学生等 100円(80円)（　）内は20名以上の団体
※18歳以下および70歳以上無料　※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
「生誕100年 林忠彦展」の観覧券で常設展も無料(～12/24)

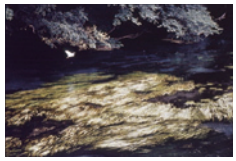
■休館日：月曜日

展示室4 林忠彦記念室

生誕100年　林忠彦の仕事Ⅲ ～風景　12/28(金)まで開催中

生誕100年を記念して林忠彦の足跡をたどる第3弾は、風景写真です。

林は、昭和55(1980)年に発表した『長崎・海と十字架』で、初めて風景写真に取り組みました。人物がほとんど登場しない風景の中に“人”の息づかいや生き様を表現する独自の「風景的人物写真」を開拓しました。その後、『若き修羅たちの里―長州路』、『西郷隆盛』とその手法を深化させ、晩年には病と闘いながら最後の作品となった『東海道』を撮影しました。


柿田川(「東海道」)

大浦天主堂
(「長崎・海と十字架」)

展示室5 まど・みちおコーナー

12/1(土)から展示作品が替わります

この作品は、『まど・みちお詩集⑤ことばのうた』の表紙絵(銀河社)です。まど自身が描いたものです。

この詩集の扉絵やカットは、まどが手がけています。

まどは他にも、藤田圭雄編『まど・みちお童謡集』(彌生書房)、後輩の詩人たちの詩集の表紙やカットも描いています。

今回は、抽象画のほかに、このようなカット類も紹介します。

『まど・みちお詩集⑤ことばのうた』表紙絵

徳山の歴史 特設コーナー

徳山藩最後の藩主　毛利元蕃とその時代 12／28(金)まで展示中

幕末から維新にかけての激動の時代に徳山藩主であった毛利元蕃にスポットをあて、その時代を資料とともに紹介してきた最終回です。

慶応4(1868)年の鳥羽・伏見の戦いには、徳山藩からは十代の毛利元功が出陣しています。その功績により、明治2(1869)年6月、元蕃に八千石が与えられたときの「太政官沙汰書」を展示しています。

また、明治33(1900)年に山口の亀山公園に建てられた元蕃の銅像やその記念式典の写真もあわせてご覧ください。

Tadahiko Hayashi Award 第28回林忠彦賞 作品募集 Who is the next ?

社会は心を撃つ写真をさがしています

2018年12月31日(月)必着!!

■資　　格　国内居住であれば、アマチュア、プロ、年齢、性別、国籍を問いません。
■テ ー マ　自由
■対　　象　2018年(1月1日～12月31日)に写真展、写真集、雑誌、公募等の表現媒体ですでに発表された作品。
受賞記念写真展を開催する関係上、35～70枚程度の写真で構成された作品(同一テーマによるもの)。
■選考委員　大石　芳野(写真家)
笠原美智子((公財)石橋財団ブリヂストン美術館副館長)
河野　和典((公社)日本写真協会出版広報委員、日本カメラ社編集顧問)
細江　英公(写真家、清里フォトアートミュージアム館長)
有田　順一(周南市美術博物館館長)　(敬称略・五十音順)
■　　賞　ブロンズ像(笹戸千津子作「爽」)及び賞金100万円
■選考発表　審査後、受賞者に通知するとともに各報道機関に発表します。(2019年3月上旬予定)
授賞式は東京で行い、東京と周南市において受賞記念写真展を開催します。

第27回(前回)受賞作「川はゆく」藤岡亜弥

募集要項・歴代受賞作品など詳しくはホームページをご覧下さい。応募用紙のダウンロードもできます。

http://hayashi-award.com/

応募先／問合せ先…林忠彦賞事務局(周南市美術博物館)
〒745-0006　周南市花畠町10-16
TEL(0834)22-8880
FAX(0834)22-8886

写真の町 北海道東川展開催

第27回林忠彦賞受賞記念写真展
藤岡 亜弥「川はゆく」
11月28日(水)～12月12日(水)　会期中無休
東川町文化ギャラリー　北海道上川郡東川町東町1-19-8
TEL(0166)82-4700　http://photo-town.jp/

美博(びはく)クイズ～!〈59〉　こたえ

東京(とうきょう)の銀座(ぎんざ)にあるバー、ルパンだよ。
林忠彦(はやしただひこ)は、ここを仕事(しごと)の連絡場所(れんらくばしょ)にしていたんだ。
美術博物館(びじゅつはくぶつかん)の2階、林忠彦記念室(きねんしつ)にはルパンのカウンターを再現(さいげん)したコーナーがあって写真(しゃしん)も撮(と)れるよ。
みんなも太宰(だざい)を真似(まね)して写真を撮ってみよう!

日通の えころじこんぽ
お見積り無料。まずはお電話を!
0120-154022(ひっこしはにっつう)
www.nittsu.co.jp/hikkoshi/

ART and HISTORY インフォメーション

周南	周南市美術博物館 ☎0834-22-8880	■生誕100年 林忠彦展 ～12／24(月・休)
防府	毛利博物館 ☎0835-22-0001	■特別展　国宝 ～12／2(日)
山口	山口県立美術館 ☎083-925-7788	■没後400年　雲谷等顔展 ～12／9(日)
長門	香月泰男美術館 ☎0837-43-2500	■香月泰男 風景へのまなざし —スペイン編— ～1／31(木)
下関	下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080	■大内氏の興亡と毛利氏の隆盛 —海峡の戦国史 第1章 ～12／9(日)
島根	島根県立石見美術館 ☎0856-31-1860	■追悼水木しげる ゲゲゲの人生展 12／1(土)～1／28(月)
広島	広島県立美術館 ☎082-221-6246	■ブリューゲル展 画家一族 150年の系譜 ～12／16(日)
	広島市現代美術館 ☎082-264-1121	■[特別展] 松江泰治　地名事典 12／8(土)～2／24(日)
	ひろしま美術館 ☎082-223-2530	■ひろしま美術館開館40周年記念 ブリヂストン美術館展 ～12／16(日)
	ふくやま草戸千軒ミュージアム ☎084-931-2513	■発掘された日本列島2018 ～12／24(月・休)
福岡	福岡県立美術館 ☎092-715-3551	■印象派への旅　海運王の夢 バレル・コレクション ～12／9(日)
	福岡市博物館 ☎092-845-5011	■名探偵コナン 科学捜査展 ～真実への推理(アブダクション)～ ～1／14(月・祝)
	九州国立博物館 ☎050-5542-8600	■明治150年記念特別展 『オークラコレクション』 ～12／9(日)
	北九州市立美術館・本館 ☎093-882-7777	■市制55周年記念 ジョルジュ・ルオー 聖なる芸術とモデルニテ 12／16(日)～2／17(日)
	北九州市立美術館・分館 ☎093-562-3215	■1968年 激動の時代の芸術 12／1(土)～1／27(日)

～永源山公園の中にある美術館～

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

■9時30分～17時(入館は16時30分まで)
■観覧料：一般200円(160円) 学生等100円(80円)
(　)内は20名以上の団体 ※18歳以下および70歳以上無料
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
■休館日：月曜日　※展示替え等のため、2019年1/11㈮まで休館

次回展覧会のお知らせ　※次回は1月12日(土)からです。

磯崎有輔彫刻展 Isozaki Yusuke

「Vague outline —曖昧な輪郭—」

2019年1月12日(土)～3月10日(日)〈中・小展示室〉

1997年頃から彫刻作品の発表を始めた磯崎氏。インターネットが発達し大量の情報が押し寄せてくる現代、彼にとって彫刻の魅力は、「非常に歩みが遅く、曖昧なメディア(媒体)」で、「こちらから能動的に働きかけないと何も返事が返って来ない」ところだという。

磯崎氏は言う。「僕はこれからもそんな彫刻とじっくり対峙し続け、『曖昧な輪郭』の向こう側に更なる新しい喜びや発見があることを信じて制作に励んで行こうと考えている」と。

現代社会のあり方への問いかけともいえる磯崎氏の作品世界に足を踏み入れると、彫刻の新たな魅力を感じていただけるに違いない。

ロタ／Rota(輪)
2018年　H204×W90×D16(cm)
木に蓄光顔料

セルフポートレイト／
Self-Portrait(a Naked Man)
2003年　H204×W63×D55(cm)
木に金箔,オニキス

【略歴】
1972年　山口県周南市生まれ
1996年　東京藝術大学美術学部彫刻科卒業
1998年　東京藝術大学大学院美術研究科 彫刻専攻修了
1998年　東京藝術大学非常勤助手(～2001年)
2001年　東京藝術大学常勤助手(～2004年)

作家による作品解説(手話通訳付)
1月12日(土) 9:30～ 正午までは入場無料

尾崎正章常設展「食卓の風景」〈大展示室〉

同時開催

今年度は尾崎の描いたさまざまな風景を紹介しています。最後となる4回目は、食卓を描いた作品を展示します。

いわしやカニ、葡萄やレモンなど、尾崎は多くの静物画を描いています。それらの多くは、画家の日常を垣間見ることができる食卓の風景です。独特の白い画面の中で、鮮やかな色彩が私たちの目を楽しませてくれます。

「にしん (一)」　油彩・キャンバス

ミニコラム ガス燈

澄んだ空気の中、幻想的に輝く街のイルミネーションが、冬の訪れを感じさせます。

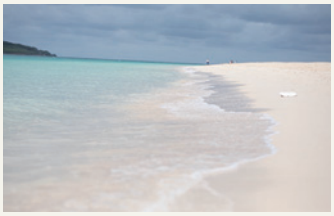
寒い冬を乗り切るために先日、宮古島でエネルギーをチャージしてきました。

9月に予定していた旅行でしたが、台風で飛行機が欠航。日程を改め、やっと今月行くことができました。雲が多く、青空はたまに顔をのぞかせるくらいでしたが、〝透明度の高い宮古ブルーの海〟と〝きめ細やかで真っ白な砂浜〟が織りなすコントラストを見て、非日常の空間を感じる時間が過ごせました。

コンサートも、天候などで中止や延期になる場合があります。変更などの情報は、アーティストの公式HPや会場のHPなどでお知らせがあります。天候によって公演の開催が不安な場合は、事前チケットを購入された場所にお問い合わせしてください。

来年も多彩なアーティストが、文化会館のステージを華やかに飾ってくれます。子どもから大人まで楽しめる仮面ライダースーパーライブは、歴代のライダーが登場するスペシャルな内容となっています。ぜひ、ご家族で文化会館に足をお運びください。

(山本ちよの)



東洋一の美しさで知られる宮古島・与那覇前浜ビーチ